

# 単元設定のねらい

## 単元の構成

配当 時間 「教材を占」	学習指導要領の指導事項	評価規準 （主体的に学習に取り組む態度）を除く	言語活動例	
8	<p>● 情報を吟味する 「情報はつくられる」 ● 情報と適切につきあう 「ひとまず、信じない」 ● 情報を適切に編集する 「情報を編集し、的確に発表する」 ——パブ リックスピーチ ● 学びを深める 「情報と身体」</p>	<p>言葉イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。 言葉オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。 情報工 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。 話す・聞くア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。 話す・聞くイ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考へるなど、話の構成や展開を工夫すること。</p>	<p>・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考へるなど、話の構成や展開を工夫している。</p>	<p>❖ ア 読自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする。 ❖ 工 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に對して発表する。</p>

## 学習の系統性と教材の配置

### ●学習指導要領「話すこと・聞くこと」指導事項の系統性

中学校 第3学年	高等学校 現代の国語
<p>話題の設定、情報の収集、内容の検討</p> <p>ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考へて、話の構成を工夫すること。</p>	<p>話題の設定、情報の収集、内容の検討</p> <p>ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。</p> <p>イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考へるなど、話の構成や展開を工夫すること。</p>
<p>構成の検討、考えの形成</p>	<p>構成の検討、考えの形成</p>

### ●教材の配置と学習活動の目標・内容

#### 第一教材「情報はつくられる」

##### ★情報を吟味する

〔中学校第三学年話聞ア・イ〕→「現代の国語話聞ア・イ」の系統性をふまえて、  
・別々の時間、そして場所で撮影された三枚の写真が並べられることで作られる「物語」を想定した上で、情報発信者として情報をどのように扱うべきなのか、あるいは情報を受信する際にどのようなことに注意するべきなのかを整理し、情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方を理解する。

#### 第二教材「ひとまず、信じない」

##### ★筆者の考へる情報との付き合い方について理解する

〔中学校第三学年話聞ア・イ〕→「現代の国語話聞ア・イ」の系統性をふまえて、  
・筆者の主張する「ひとまず、信じない」ためにすべきこととして、情報の発信者などを検証しなければならないこと、また、情報の信頼性自体を問い直すことが求められることを理解し、日々の自分自身の情報とのつきあい方自体を見直す。

#### 第三教材「情報を編集し、的確に発表する」——パブリックスピーチ

##### ★情報を適切に編集する

〔中学校第三学年話聞ア・イ〕→「現代の国語話聞ア・イ」の系統性をふまえて、  
・「パブリックスピーチ」の原稿作りとスピーチをする体験をおとして、実際に「相手を意識」した上で「情報として何を伝えるべきなのか」「何を事例として用いるのか」さらに「用いる事例は情報として信頼できるものか、説得のために妥当なものか」などを観点として検証し合い、情報を発信する際に気をつけることについてまとめる。

確かな情報を伝える

## 情報はしつくりされる

### 採録のねらい

#### ●資質・能力の観点から

本教材は、「現代の国語」の「A話すこと・聞くこと」の指導事項「A 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること」および「知識及び技能（2）情報の扱い方に関する事項」の「エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと」を意識したものである。

情報が洪水となって氾濫する現代において、その真偽を見きわめる能力を身につけることの重要性は以前から指摘されてきた。しかし、インターネットに接続する全ての人が発信者となった今、あらゆる種類と位相の情報に触れることが可能な一方で、その信頼性を全て吟味するのは不可能である。その意味では、二〇二〇年から猛威を振るった新型コロナウイルスによる感染症の災禍は、未知の状況に直面した個々人が、何が有益な情報と行動かを選択し決定することが迫られる事態であったと言える。

このような時代を生きる上で、最終的な判断をどのようなものにするにせよ、膨大な量の玉石混濁な情報に対して「妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う」にはどうすればよいか。ここでは、実際の事例をもとに自らの経験や体験を振り返るところから始めていきたい。

#### 学習指導のポイント

・身近にある体験などから、情報を吟味するために必要な視点を獲得する。

#### ●テーマの観点から

インターネットの普及により、編集や校閲の行われない個人発信の剥き出しの情報や、デジタル技術の進歩によってSF映画よりもリアルなフェイク画像が一瞬にして世界を駆け巡る時代。社会生活を送る上で、従来のメディア・リテラシーのように「信頼できる情報源から多角的に資料を集め、比較検討して一定の結論を導く」という考え方だけでは、圧倒的な情報量を前に立ちすくむような状況に陥ることもあるだろう。

そのような場面では、情報に対する基本的な知識や姿勢を自分の中にもっておくことが、対応策の一つとして有効であると考えられる。ここでは、実際に起きたフェイクニュースを巡る一連の動きことから、「情報はつくられる」という（ともすれば忘れてしまいがちな）大前提を確認することを目指した。

自分が目にしたもの以外の情報は全て誰かによってつくられたものである、という基本的な観点を確かめることをとおして、本単元のねらいである「確かな情報を伝えるために」必要な視点を育成したい。実際の学習活動においては、生徒たちからフェイクニュースに遭遇した実体験などを引き出し、考える意欲につなげることもできよう。

#### 学習指導のポイント

・身近な体験などをとおして、確かな情報を伝えるために必要なこととは何かを考える。

## 学習指導の展開

### ●学習指導要領の指導事項

#### 知識及び技能

情報工 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。

#### 思考力、判断力、表現力等

話す・聞くア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

### ●評価規準

#### 知識・技能

・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。

#### 思考・判断・表現

・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。

### 主体的に学習に取り組む態度

・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使ったり、目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。

確かな情報を伝える

ひとまず、信じない

◆押井守

採録のねらい

●資質・能力の観点から

本教材は「高等学校学習指導要領」の「現代の国語」における「A 話すこと・聞くこと」の指導事項の「イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。」に焦点化している。これをふまえ、「自分の立場や考えを明確に」し、「話の構成や展開を工夫」するためのヒントとして、本教材を置いた。

本文で筆者は「情報なんてフェイク」、「ネットは、人々を情報から遠ざけてしまった」と述べ、人々がインターネットによって実現したと考えることですら「大いなるフェイク」と切って捨てて。ともすれば、それを主張する人間のほうが疑わしく思えるような言説である。

だが、筆者は本文の冒頭で脳の仕組みについて説明し、そもそも脳の知覚自体がバーチャルであり、私たちが生きているのが夢の世界かどうかを証明できないことを前提として論を展開している。そのことによって、主張が一定の強度をもち、読み手を説得していくのである。学習者がこれらの点を理解し自らの表現のヒントとすることが、本教材のねらいとなる。

学習指導のポイント

- ・自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫させる。
- ・情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりさせる。

●テーマの観点から

高校生ともなれば、押井守の名を知る学習者もいるかもしれない。もう何年も新作こそ発表していないものの、日本が誇るアニメーション映画監督であり、ハリウッドの映画監督たちにも影響を与えた人物である。ある時期の彼の映画に通底するのが、バーチャル(仮想)とリアル(現実)のせめぎ合いであり、ひいては「自分とは何か」「生命とは何か」という問題である。

これらは、いわば哲学や自然科学における究極の命題であり、紀元前から現代に至るまで、さまざまな議論が行われている。押井の名を海外でいちゃく広めた映画「攻殻機動隊/GHOST IN THE SHELL」でも、ネット全盛の時代に自我や生命はどこまで情報に置き換えられるのか、という思考実験めいた物語が展開される。本教材の論旨も、その延長上にあると言えよう。

本教材を読むことで「仮想と現実」「自我」といった古くて新しいテーマに触れ、それらについて考えることは、ネットによる情報発信が日々の生活と密接に結びついている現代を生きる学習者にとっても、興味深い体験になると思われる。無論、もっと単純に「情報はどこまで信じられるか」という点にクローズアップして考えさせてもよい。

学習指導のポイント

- ・与えられた情報に対する自身の認識の仕方について、体験をとおして考えさせる。

概要

●筆者

押井守(おしいまもる)

一九五一(昭和二六)年、東京都の生まれ。東京学芸大学教育学部美術教育学科卒。映画監督。東京大学大学院特任教授、東京経済大学客員教授。  
一九七七年、タツノコプロダクション入社。一九七八年、フジテレビ系列「タイムボカンシリーズ ヤッターマン」で演出を担当。一九八〇年、NHK総合テレビ「ニルスのふしぎな旅」で演出を担当。一九八三年、劇場アニメーション「うる星やつら オンリー・ユー」翌年「うる星やつら2 ビューティフル・ドリーマー」で監督。「機動警察パトレイバー」シリーズにアニメ監督として参加。一九九五年に監督した「攻殻機動隊/GHOST IN THE SHELL」は、米ビルボード誌ビデオ週間売り上げで一位を獲得。二〇〇四年「イノセンス」で日本SFF大賞受賞。二〇〇八年「スカイ・クロラ」でヴェネツィア国際映画祭のコンペティション部門に正式出品。ジェームズ・キャメロン、ウォシャウスキー姉妹、クエンティン・タランティノー、ギレルモ・デル・トロなど世界的クリエイターに影響を与えてきた。

●出典

『ひとまず、信じない 情報氾濫時代の生き方』(二〇一七年・中公新書ラクレ)より、「第3章 ニセモノ論 つまり、初めからフェイクなのだ」による。

教科書掲載にあたり、筆者の承諾を得て文章と表記の一部を改めた。

●要約

二〇〇字以内

人間の脳がこの世界を仮想的に理解しているため、何が現実なのかということを実証することができない。結果、リアルタイムで真実を追求しようとするインターネットの構造そのものが、フェイクニュースを生み出している。映像として切り取られたものは現実のごく一部にすぎず、情報発信者によって情報の信頼度は大きく変わってくるからだ。インターネットの出現は、個人が手にできる情報の精度を、格段に落としてしまったのである。(二〇〇字)

二〇〇字以内

人間は何が現実なのかを実証できない。リアルタイムで真実を追求するインターネットの構造こそがフェイクニュースを生み出している。インターネットの出現は、個人が手にできる情報の精度を格段に落としてしまった。(二〇〇字)

●表現の特色

「リアルタイムで真実を追求するというインターネットの構造そのものが、フェイクニュースを生み出す仕組みになっている」という表現に端的に表れているように、「フェイクニュース」は、人々の悪意によってではなく、「リアルタイムで真実を追求するというインターネットの構造そのもの」によって生み出されていると筆者は指摘している。他にも、SFアニメーションの演出や監督を長年務めてきた筆者らしく、常識に反するような判断をあえて断定的に語るところに表現上の特色がある。

学習指導の展開

●学習指導要領の指導事項

知識及び技能

言葉才 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。

思考力、判断力、表現力等

話す・聞くイ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。

●評価規準

知識・技能

・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。

思考・判断・表現

・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。

主体的に学習に取り組む態度

・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。

●学習指導案例

学習指導案

〇〇高等学校国語科 〇年〇組  
授業者 〇〇〇〇

1. 学習活動 情報とのつきあい方について、資料を参照しながら自分の考えをもつ。
2. 教材名 「ひとまず、信じない」・その他の関連資料
3. 学習目標 集めた情報をまとめ、自分の考えを述べたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、反論したりすることができる。

4. 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 (言葉才)	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。 (話す・聞くイ)	文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりするとともに、自分の考えを深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。
評価の実際	文体や構成に注意しながら教材の内容を理解している。 (ノートの確認)	教科書本文から読み取ったことや自分で考えたことをまとめている。 (ノートの確認)	伝え方を工夫して自分の考えを述べようとしている。 (ノートの分析)

5. 授業の展開 (2時間)

時	学習活動	評価
1	・教材文を読み、脚間等を手がかりに内容を読み取る。	文体や構成に注意しながら教材の内容を理解している。 (知識・技能、ノートの確認)
2	・教材文の内容を手がかりに、「情報と適切につきあう方法」について考える。 ・考えたことについて、ペアやグループなどで交流する。	教科書本文から読み取ったことや自分で考えたことをまとめている。 (思考・判断・表現、ノートの確認) 伝え方を工夫して自分の考えを述べようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度、ノートの分析)

●学習指導の展開例(2時間扱い)

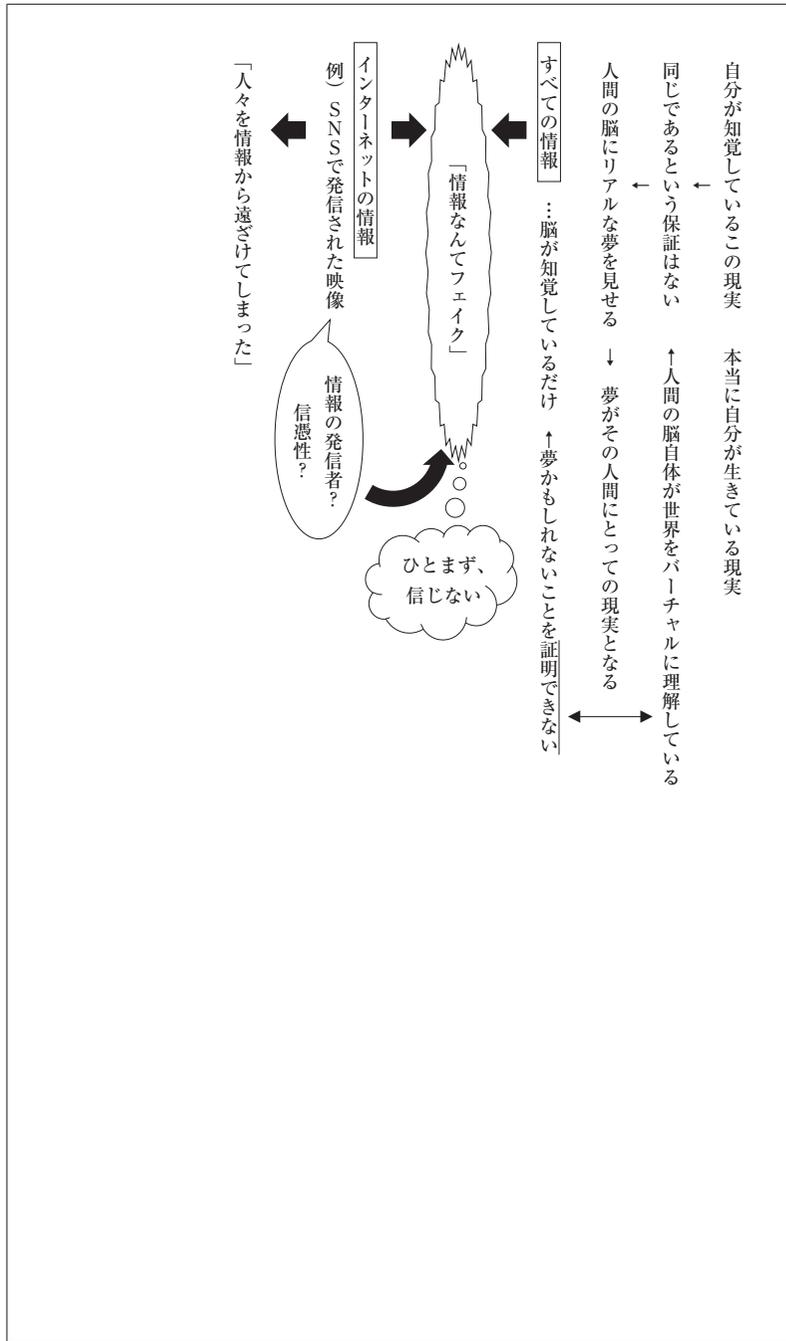
時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点
第1時限	<p>・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。</p>	<p><b>導入</b></p> <p>1 学習活動1「次の文章を読んで、情報と適切につきあう方法について話し合おう。」という目標を確認する。</p> <p><b>展開1</b></p> <p>2 押井守「ひとまず、信じない」本文をペアワークで音読し、語句の意味や読み方の確認を行う。</p> <p>3 脚問「自分が知覚しているこの現実と、本当に自分が生きている現実が同じものであるという保証はどこにもない」のはなぜか、考える。</p> <p>4 考えたことをグループで交流する。</p> <p>5 交流を受けて考えを整理し、気づいたことや考えたことをメモする。</p>	<p>1 前時の授業を振り返り、学習活動への生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>2 二人一組で、辞書で調べる語句に印をつけながら、形式段落ごとに交代で音読させる。教科書の脚注欄も活用させる。</p> <p>3 ノートにメモさせる。この段階で、文面が整っている必要はない。</p> <p>4 自分の考えを提供しつつ、相手からヒントをもらうつもりでよい。</p> <p>5 最初に自分が考えたことをふまえ、グループワークで出てきた視点を加えつつ、自分の解答を完成させる。文章を読む前後の自分の認識の変化を記録させる。</p>
		<p><b>評価規準</b></p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。</p>	

時間	目標	学習活動と指導内容	指導上の留意点
第2時限	<p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にする。同時に、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。</p> <p>・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にする。同時に、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりするとともに、自分の考えを深めたりする。ことに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとする。</p>	<p><b>展開2</b></p> <p><b>まとめ</b></p> <p>1 目標を確認する。</p> <p>2 脚問「今のネットの根本的な問題」とは何か、「ネットは、情報から人々を遠ざけてしまった」とはどういうことか、について考える。</p> <p>3 考えたことをグループで交流する。</p> <p>4 交流を受けて考えを整理する。</p> <p>5 「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか、考える。</p> <p>6 自分で考えたことをグループワークで共有する。</p> <p>7 学習を通じて気づいたことや考えたことをメモする。</p>	<p>1 前時の授業を振り返り、学習活動への生徒の興味・関心を喚起する。</p> <p>2 自分で考えたことをノートにメモさせる。</p> <p>3 この段階で、文面が整っている必要はない。自分の考えを提供しつつ、相手からヒントをもらうつもりでよい。</p> <p>4 最初に自分が考えたことをふまえ、グループワークで出てきた視点を加えつつ、自分の解答を完成させる。</p> <p>5 自分で考えたことをノートにメモさせる。</p> <p>6 発表の形式を意識して、時間や順番を決めて行わせてもよい。</p> <p>7 授業前と授業後の自分の認識の変化を中心に記録させる。</p>
		<p><b>評価規準</b></p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にする。同時に、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解したり、分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にする。同時に、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりするとともに、自分の考えを深めたりする。ことに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>	

●全体の構成  
学習の具体と教材の解説

段落	ページ・行	要旨
第一段	初め～44・15「…世界ではないか。」	知覚と現実 人間の脳は、この世界を仮想的に理解しているため、何が現実なのかということを実証することができない。世界の認識は動物と人間で異なるし、人間にとってリアルな夢と現実との区別はつかないのではないか。
第二段	45・1「本当は…」～46・12「…怖いことである。」	情報の落とし穴 リアルタイムで真実を追求しようとするインターネットの構造そのものが、フェイクニュースを生み出している。映像として切り取られたものは現実のごく一部にすぎず、情報発信者によっても情報の信頼度は大きく変わってくる。
第三段	46・13「ネットの…」～終わり	ネットは情報から人々を遠ざける インターネットによって、すべての人類が同じ土俵で問題に向き合うことができるようになったわけではなく、むしろ個人が手にできる情報の精度は格段に落ちてしまった。

●展開図



●第三段(46・13「ネットの…」(終わり)の要旨  
ネットは情報から人々を遠ざける

インターネットによって、すべての人類が同じ土俵で問題に向き合うことができるようになったわけではなく、むしろ個人が手にできる情報の精度は格段に落ちてしまった。

「47ページ」

- 1 かなり控えめに言っても、無自覚にデマゴギーをまき散らす存在「ネットの登場によって、……切り拓いた」(46・13～15)と考える人々のこと。悪意をもっているわけではなく、一般的な認識を備えた人々が、結果として大きな過ちを犯す可能性が強調されている。
- 2 そんなこと、前段落の「ネットの登場によって……同じ土俵で問題に向き合うことができる」こと。インターネットによって招来されるはずの理想の未来のイメージである。
- 4 (語句) 格段、程度や段階の差がはなはだしい・こと(さま)。かくべつ。とりわけ。段違い。
- 4 情報の精度を、格段に落としてしまった インターネットによってさまざまな情報にアクセスできるようになった一方で、人々は個々の情報の精査をしなくなり、手にする情報の精度が下がっているということ。結果、「フェイクニュースに足をすくわれる」(45・8)ことになりかねないのである。

〈板書例〉



指導の要点

・「ネットは、情報から人々を遠ざけてしまった」とはどういうことか、文脈にそって捉える。

「学習活動1」情報を整理するためにの解説

学習活動1 次の文章を読んで、情報と適切につきあう方法について話し合おう。

【ねらい】

本文の読解をおして、情報との適切なつきあひ方について、自分の考えを広げたり深めたりする。

【解説】

本教材は本文に情報の取り扱いは関わる内容を含んでいるため、適切に読解すれば、自然と「情報と適切につきあう方法」についての知見を得ることができるようにになっている。単元における一つ前の教材である「情報はつくられる」と合わせて学習(読解)することで、情報―特にインターネット上の情報―に対してどのように対処すべきかという点で、学習者の視野を広げたり深めたりするヒントになることが期待される。

また、単元においてこの後に設定されている「情報を編集し、的確に発表する パブリックスピーチ」の学習を想定し、本文を読んで考えたことを、話し合うことをとおして言語化し表出する練習としても位置づけている。

情報を整理するために

・「ひとまず、信じない」とあるが、なぜ「ひとまず」なのか説明してみよう。

【ねらい】

「学習活動」の補足的活動であり、学習者が「言われてみれば…」と思うような問いを設定することで、内容の精読や本文全体の捉え直しにつなげる。

発問・脚問

「47ページ」

問 「ネットは、情報から人々を遠ざけてしまった」とはどういうことか。

答 インターネットの出現は、個人が手にできる情報の精度をそれまでよりも格段に落としてしまい、人々は確かな情報にたどりつけなくなっている、ということ。

解説 本来ならば、ここで「人々を遠ざけてしまった」ものは「情報」よりも「事実」だろうが、教科書の本文中で、筆者は「事実」という言葉を一度も使っていない。つまり、筆者にすれば、主体が何らかの形で外部から告げ知らされるものであるという点で、事実と情報の間に違いはない、ということになる。これほど情報を手に入れるのが容易であるように見える現代社会において、人々が「事実」ではなく「情報」から遠ざかっているというのは逆説めいて聞こえるかもしれない。だが筆者に言わせれば、インターネットから信頼できる情報を求めようとする姿勢そのものに危うさが伴っているのであって、安易に手にした情報を盲目的に追従してしまっている時点で、当事者が有益な情報を手に入れる可能性は皆無だ、と言いたいのもかもしれない。

【解答例】

ネットによって精度の低い情報が増えている現状では、情報をそのまま受け入れるのではなく、いったん情報の発信者などを検証しておく必要があると筆者は考えているから。

【解説】

筆者としても、何もかもを疑えというのではなく、「『情報なんてフェイク』くらいのニヒリズムでも持っていなければ、フェイクニュースに足をすくわれる」ということは言いたい(45・7)という言葉にあるように、手軽に手に入る情報に何も疑いをもたないようないやうにに対して警告を発しているの

である。したがって、「何ものも信じない」という徹底的なニヒリズムではなく、情報に接する際には「ひとまず」立ち止まって、情報のもつ根本的な危うさを確かめる、溜め、をもて、というメッセージであると理解できる。

確かな情報を伝える

# 情報を編集し、的確に発表する パブリックスピーチ

## 採録のねらい

### ●資質・能力の観点から

本教材は、「現代の国語」の「A話すこと・聞くこと」の指導事項「自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること」を重点として意識したものである。

学習者は小・中学校において、スピーチに必要な能力として話の構成を工夫したり、声の大きさや話す速度に気をつけたりすることについて学習し、また各教科の学習やクラブ活動などの場で、人前で話すことを経験していると考えられる。そのため、苦手意識があったとしても、基本的な話す力は獲得していることが予想される。

このことをふまえ、本教材では「自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にすること」「話の構成や展開を工夫すること」をねらいとした。「相手意識」をもち「内容を的確に伝える」ためには、伝えることの明確化や伝わりやすい構成や話し方の工夫が欠かせない。基本的な技術を前提に、社会に向けて発信していくために高める要素を確かめ、磨きをかけていくことが目的である。「パブリックスピーチ」という提案性と公共性の高い言語活動を生かして、学習者が主体的に取り組む活動としたい。

### 学習指導のポイント

・話す相手や場を意識しながら、集めた情報を編集し、スピーチの原稿をつくる。

### ●テーマの観点から

本単元では、「確かな情報を伝えるために」をテーマとして、教材「情報はつくれる」「ひとまず、信じない」といった教材をおして、情報に接する上での基本的な姿勢を学んできた。ここでは、そうした学習をふまえ、情報に対して自分が今どのような考えをもっているか、を伝えることをねらいとしている。

情報への対処やメディア・リテラシーといった話題について調べたり自分の考えを述べたりすることは、スピーチという言語活動と同様に、既に経験のある学習者も少なくないと予想される。その上で、高校生として新たに身につけた知識や考え方を取り入れながら、相手意識をもって構成や伝え方を工夫することをおして、中学校からのステップアップを目指したい。

また、相手意識をもつとは、自分以外の人が「何を」「どのように」話しているかなど、話を「聞く」ことも含まれる。「聞く」ことは、情報の吟味などにおいて発信者の目的やその根拠にも着目することも通じるし、情報の収集を行う際にも欠かせない姿勢である。今後の「プレゼンテーション」「パルティスセッション」などの言語活動においても必要な能力であるので、本教材で意識させておきたい。

### 学習指導のポイント

・伝わりやすい内容や話し方になっているか、場に応じた適切な発表になっているかなどを意識して、スピーチをしたり聞いたりする。

## 学習指導の展開

### ●学習指導要領の指導事項

#### 知識及び技能

言葉イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。

#### 思考力・判断力・表現力等

話す・聞くイ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。

### ◆言語活動例

ア 自分の考えについてスピーチをしたり、それを聞いて、同意したり、質問したり、論拠を示して反論したりする。  
 工 集めた情報を資料にまとめ、聴衆に対して発表する。

### ●評価規準

#### 知識・技能

・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。

#### 思考・判断・表現

・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。

### 主体的に学習に取り組む態度

・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。

第1時限	時間	●学習指導の展開例(3時間扱い)
・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。	目標	
評価規準	導入	学習活動と指導内容
※第2時限と合わせて行う。	1 学習の見通しをもつ。 2 話すテーマとそれに対する自分の考えを決める。 3 必要な情報の検討と収集の準備をする。	
	指導上の留意点	
	1 話す相手を意識して、話の構成や展開を考えて話すことが目標であることを伝える。 2 教科書にあるテーマとは別に、学校のカリキュラムや他教科との関係の中から独自に設定してもよい。 3 教科書214ページ「情報収集の方法」を適宜参照する。次時までの課題としてもよい。	

学習指導案			
		○○高等学校国語科 ○年○組 授業者 ○○○○	
1. 学習活動 「情報を適切に扱うためにはどうすればよいか」を提案する活動			
2. 教材名 「情報を編集し、的確に発表する パブリックスピーチ」・その他の関連資料			
3. 学習目標 相手や場を意識して、構成や展開を工夫したスピーチを行うことができる。			
4. 評価規準			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。(言葉イ)	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。(話す・聞くイ)	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。
評価の実際	話す場や相手に応じた言葉遣いを行っている。(行動の確認)	考えが伝わるように資料を選んだり、話の構成や展開を工夫したりしている。(ノートの確認)	交流をとおして、より伝わるよう話の構成・展開や言葉遣いを工夫しようとしている。(ノートの分析)
5. 授業の展開 (3時間)			
時	学習活動	評価	
1	話すテーマとそれに対する自分の考えを決め、必要な情報の検討と収集の準備をする。	※第2時限とまとめて行う。	
2	資料を決め、スピーチ原稿案を交流して、構成や展開を検討する。	考えが伝わるように資料を選んだり、話の構成や展開を工夫したりしている。(思考・判断・表現、ノートの確認)	
3	交流をもとに原稿を完成させ、パブリックスピーチをする。	話す場や相手に応じた言葉遣いを行っている。(知識・技能、行動の確認) 交流をとおして、より伝わるよう話の構成・展開や言葉遣いを工夫しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度、ノートの分析)	

●学習指導案例

第3時限		時間
<p>・話し言葉と書き言葉の特色や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応や考えを明確にする。</p>		<p>・話し言葉と書き言葉の特色や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応や考えを明確にする。</p>
<p>・話し言葉と書き言葉の特色や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応や考えを明確にする。</p>		<p>・話し言葉と書き言葉の特色や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応や考えを明確にする。</p>
<p>まどめ</p>	<p>1 交流をもとにスピーチ原稿を完成させる。</p> <p>2 パブリックスピーチをする。</p> <p>3 学習を振り返り、考えたことをまとめる。</p>	<p>1 本番を想定して言葉遣いなども意識させる。</p> <p>2 教科書51ページなども参照しながら交流を交えて行う。</p> <p>3 適宜、単元の「振り返る」の課題にも取り組ませたい。</p>
<p>評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特色や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・話し言葉と書き言葉の特色や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使ったり、自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫したりすることにに向けた粘り強い取り組みを行うとともに、自らの学習を調整しようとしている。</p>	<p>指導上の留意点</p>

第2時限		時間
<p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。</p>		<p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。</p>
<p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。</p>		<p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することができる。</p>
<p>展開</p>	<p>1 追加する資料を集めて選ぶ。</p> <p>2 スピーチ原稿案をつくる。</p> <p>3 スピーチ原稿案を交流して構成や展開を検討する。</p>	<p>1 「結論」自分の考え」を補強する視点で、情報を集めたり選んだりするように伝える。</p> <p>2 材料をもとに構成・展開を意識して書く。</p> <p>3 ここでは、声の大きさや抑揚よりも、話の展開に注意して相互に評価し合うようにする。</p>
<p>評価規準</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。</p>	<p>指導上の留意点</p>

【第3時限】

●まとめ

1 交流をもとにスピーチ原稿を完成させる。

前時で行った交流を受けて、スピーチ原稿案を改訂する。

改訂の際に重視するポイントは、結論である「自分の考え」の根拠となる資料の選択と並び順に加え、実際の発表を想定した言葉の使い方を検討することである。結論までの流れについては、交流の結果を受けて、もう一度全体を整理したい。

発表の場や状況に応じた表現の具体としては、「提案内容について問いかけ」と「例示、言い換え、補足をする」などがあげられる。前者は、聞き手と問題意識を共有したり、注意を喚起したりする効果がある。パブリックスピーチの冒頭のみでなく、中盤・終盤で活用することも視野に入れて指導をしたい。後者は、聞き手が十分に理解できていないときに活用したい。「例えば……」という表現以外にも、「これは……」という意味です。」なども考えられる。

いずれも適切に活用するためには、聞き手の表情などから理解度を推察することがポイントとなる。そのため、聞き手に「視線」を送る際に、数名を観察するように指示することも実態に応じて指導するとよい。

ここまでの過程を中心に、「知識・技能」の評価を行う。

2 パブリックスピーチをする。

原稿を使ってスピーチを行う。

隣どうしや少人数でのグループで発表し合う。「スピーチ三分+質疑二分」で行い、時間をシビアにして進行することで緊張感をもたせたい。

3 学習を振り返り、考えたことをまとめる。

学習をおして得た自分なりの考えを、ノートやワークシートに記述する。

「振り返る」の解説

① 情報との適切なつきあい方について、「ひとまず、信じない」の筆者の考えをまとめよう。

本単元は、「話すこと・聞くこと」を資質・能力を育成することを目指すものであり、とりわけ、指導事項の「ア」の「目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。」や、「イ」の「自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。」の意味やその具体的な方法を振り返る活動である。

ここでの振り返り活動の中心は、押井守の文章を読み、「情報」がもつ危険性を認識することにある。情報伝達の媒体の変化は、私たち一人一人の情報との関わり方を変化させ、個々人が情報の発信者としての役割を担うことになった。これによって、情報自体がいかに加工され編集されるのかということ、そして発信された情報自体の信頼性を検証することが、従前以上に求められる社会になったことを示唆する文章となっている。

振り返りを行う際には、「ひとまず、信じない」の「情報を整理するため」の学習を手がかりにして、題名に「ひとまず」という言葉が使われていることを取りあげたい。筆者が考える、情報の精度が低下した社会の中で「何ものも信じない」というのではなく、情報に接する際には「ひとまず」立ち止まって情報のもつ根本的な危うさを確かめる「溜め」のようなものをもて、というメッセージであることを理解させたい。その上で学習者とは、情報とのつきあい方の大前提としてその信頼性や妥当性を検証することを確かめ、共有したい。

時間に余裕があれば、ペアや班などで感想なども含めて交流してもよい。「主体的に学習に取り組む態度」については、導入と展開における記録に加え、ここでの記述をふまえて総合的に判断する。

参考資料

教材研究・授業研究のための文献

- ・『フェイクニュースを科学する』笹原和俊（二〇二二年・DOJIN文庫）
- ・『データ・リテラシー』マーティン・ファクラー（二〇二〇年・光文社新書）

読書指導・発展学習のための文献

- ・『フォト・リテラシー』今橋映子（二〇〇八年・中公新書）

② 情報との適切なつきあい方ができているかどうか、自分の考えをまとめたり、発表したりしよう。

情報との適切なつきあい方ということを考える時、私たちはまず、自分が情報受信者と情報発信者の二つの側面をもつことを意識しなければならぬ。前者の情報受信者としての側面は、教材「情報はつくられる」の学習活動や、続く「ひとまず、信じない」の学習、そして「振り返る①」などを通じてまとめいくことができるだろう。

一方で、後者の情報発信者としての立場は、「パブリックスピーチをしよう」において、発信者として情報をいかに編集するかという学習活動に取り組んでいる。この活動の振り返りを行うことで、学習者は、発信者としてどのように情報を伝えていくことが求められるかについてまとめられることができるだろう。また指導事項との関連で、情報発信者として注意すべきこととしては、以下のようなものとなる。

- ・自分の考えが的確に伝わるよう、適切な情報を収集、整理し、伝える内容を検討する。
- ・自分の立場や考えを明確にする。
- ・聞き手のことを意識して、論理の展開や話の展開を工夫し、納得できるように内容を構成する。

情報社会に生きる上ではリテラシーをもつことが重要であり、その前提として、注意すべきことを知識として形成することが大切である。その上で学習者には、自身の情報との関わり方の実際を振り返らせるなどして、情報社会において情報と接する時の基本的な態度や、特に気をつけなければならないことなどを自覚させ、構築させていきたい。